☆聖霊降臨の主日（５月３１日）の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（使徒たちの宣教　２章１～１１節）

　五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。 人々は驚き怪しんで言った。
「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。 また、ローマから来て滞在中の者、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 1 章 3b～7, 12～13 節）

　兄弟のみなさん、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。 務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。 働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。 一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、

奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。

福音朗読　（ヨハネよる福音書　２０章 １９～２３節）

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。 そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とをお見せになった。 弟子たちは、主を見て喜んだ。 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。 父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。 だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。 だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

信徒の皆様、聖霊降臨祭おめでとうございます。というのも、この聖霊降臨祭は私たちカトリック教会の誕生日だからです。使徒たちの宣教の記事にはイエスの母マリアとともに祈っている教会共同体にイエスの霊である聖霊が降り、使徒たちを勇気づけ、使徒たちは宣教を始めたことが描写されているのです。「彼らは互いに心を一つにして祈っていた」とあります。 彼らは心を一つにして何を願っていたのでしょうか。 私は、この教会共同体は自分たちが恐れなくイエスが救い主キリストであることを人々に伝えられるように、勇気を願っていたのではないかと想像します。ですから聖霊が舌の形で一人一人の上に降ったのです。一人一人にです。まとまってドンとではありません。誰かが勇気を持てればよいわけではありません。私たち一人一人が勇気をもって宣教することが大切なのです。今まで言葉が通じなかった人にも伝わるようになりました。なぜでしょうか。それはその願いが自分のための願いではなく、神の国建設のための願いで

あったからです。ですからそこに聖霊の力が働いたのです。神のみ旨を行おうとするところに聖霊は働かれるのです。

第一朗読　（使徒たちの宣教　２章１～１１節）

ここでパウロは聖霊のたまものについて述べています。賜物にはいくつもあること、そしてそれは互いが協力して一つの体を作るために助け合う必要があることなどが述べられています。教会共同体が分裂の場所になってはならないと述べているのです。現在私たちはコロナ感染症によって「密」にならないようにしなければなりませんが、お互いの心は「密」になって力を合わせることができます。そこに聖霊がおられるのです。

第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 1 章 3b～7, 12～13 節）

ここでパウロは聖霊のたまものについて述べています。賜物にはいくつもあること、そしてそれは互いが協力して一つの体を作るために助け合う必要があることなどが述べられています。教会共同体が分裂の場所になってはならないと述べているのです。現在私たちはコロナ感染症によって「密」にならないようにしなければなりませんが、お互いの心は「密」になって力を合わせることができます。そこに聖霊がおられるのです。

福音朗読　（ヨハネによる福音書　２０章 １９～２３節）

「弟子たちはユダヤ人たちを恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」とあります。私たちも今まで、同じようにコロナ感染症を恐れて、「STAY HOME」をしていました。 そこにイエスが来られて真ん中に立ち「あなた方に平和があるように」と言われたのです。 私たち家族の真ん中に、私たち教会共同体の真ん中にイエスが来られるのです。 イエスの姿は私たちの目には見えませんが確かに真ん中に来られています。 そして

私たちを「平和」にしてくださるのです。そして聖霊が私たちに勇気のたまものを与えてくださるのです。　私たちの中におられるイエスを探して、聖霊の勇気のたまものを願いましょう。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光

追記

　緊急事態宣言解除が東京都にも発表されましたが、菊地東京大司教様からはまだ当分、教会でのミサは控えるようにとの指示が出されています。当教会では5月31日に教会委員会を開いてミサ再開に向けて話し合いをしたいと思っています。今しばらくお待ちください。